

## 調査概要

### ◆ 調査の目的

都内在住外国人の増加により、日本人と外国人が地域で共に暮らし、活躍していく多様化共生社会を実現するため、やさしい日本語についての意識調査を実施し、より効果的なやさしい日本語普及啓発事業に資することを目的に本調査をおこなった。

### ◆ 調査項目

- (1)外国人との接触機会
- (2)やさしい日本語の認知度/認知経路
- (3)やさしい日本語の使用頻度/使用場面
- (4)やさしい日本語の使用意向
- (5)災害や行政の情報でのやさしい日本語の取り組みの認知度

### ◆ 調査対象

16歳以上の都民

### ◆ 調査時期

令和7年3月7日～3月12日

### ◆ 調査手法

インターネットモニターを対象とするWeb調査

### ◆ 回収結果

2,276サンプル

### ◆ サンプル属性の内訳

16歳以上の都民均等割り付け

(実数)	2,276	201	211	233	234	239	
(%)	100.0	8.8	9.3	10.2	10.3	10.5	
	全 体	20代以下 女性	30代女性	40代女性	50代女性	60代以上 女性	20代以下 その他
(実数)	2,276	213	229	235	240	237	4
(%)	100.0	9.4	10.1	10.3	10.5	10.4	0.2

## 調査結果

### やさしい日本語の認知度

- やさしい日本語を知っているかを尋ねた（やさしい日本語とは、簡単な表現や言葉を使い、相手に配慮したわかりやすい日本語のこと）。「よく知っている」「ある程度知っている」「見たこと、聞いたことがある」を合わせた「知っている（計）」は全体の48.0%となっており、「全く知らない」と回答した人は52.0%となっている（図1参照）。
- 性別でみると、「知っている（計）」は男性で49.2%、女性で47.0%となっている（表1参照）。
- 年代別で見ると、「知っている（計）」は、20代以下が最も高く61.2%、以下、30代47.3%、40代45.7%、50代43.5%、60代以上43.9%となっており、年代が高くなるほど「知っている（計）」の割合が低くなる傾向がみられる（表1参照）。

図1 やさしい日本語の認知度

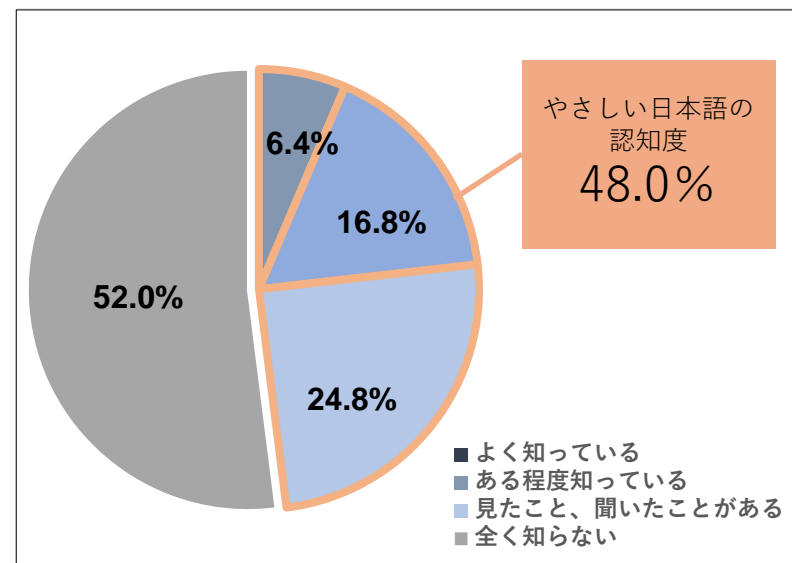


表1 やさしい日本語の認知度（性別・年代別）

		n 数	やさしい日本語の認知度				知っている と 回答した人の 合計
			よく 知っている	ある程度知っ ている	見たこと、聞 いたことがあ る	全く 知らない	
全 体		2,276	6.4%	16.8%	24.8%	52.0%	48.0%
性別	男性	1,118	7.8%	18.1%	23.3%	50.8%	49.2%
	女性	1,154	5.1%	15.6%	26.3%	53.0%	47.0%
	その他	4	-	-	25.0%	75.0%	25.0%
年代	20代以下	418	13.9%	20.8%	26.6%	38.8%	61.2%
	30代	440	6.1%	15.2%	25.9%	52.7%	47.3%
	40代	468	5.8%	15.4%	24.6%	54.3%	45.7%
	50代	474	3.0%	15.2%	25.3%	56.5%	43.5%
	60代以上	476	4.2%	17.6%	22.1%	56.1%	43.9%

※n=30サンプル以下は参考値

※小数点以下第1位表記のため合計値とカテゴリー個々を加算した計に差異あり

### 外国人との接触機会

- 外国人と接する機会別にみると、やさしい日本語を「知っている（計）」と回答した人は外国人との接触機会が「ある」66.8%、「ときどきある」71.6%で、全体と比較して、どちらも10ポイント以上高くなっている。やさしい日本語の認知度は、外国人と接する機会の頻度との相関があることが分かる（表2参照）。

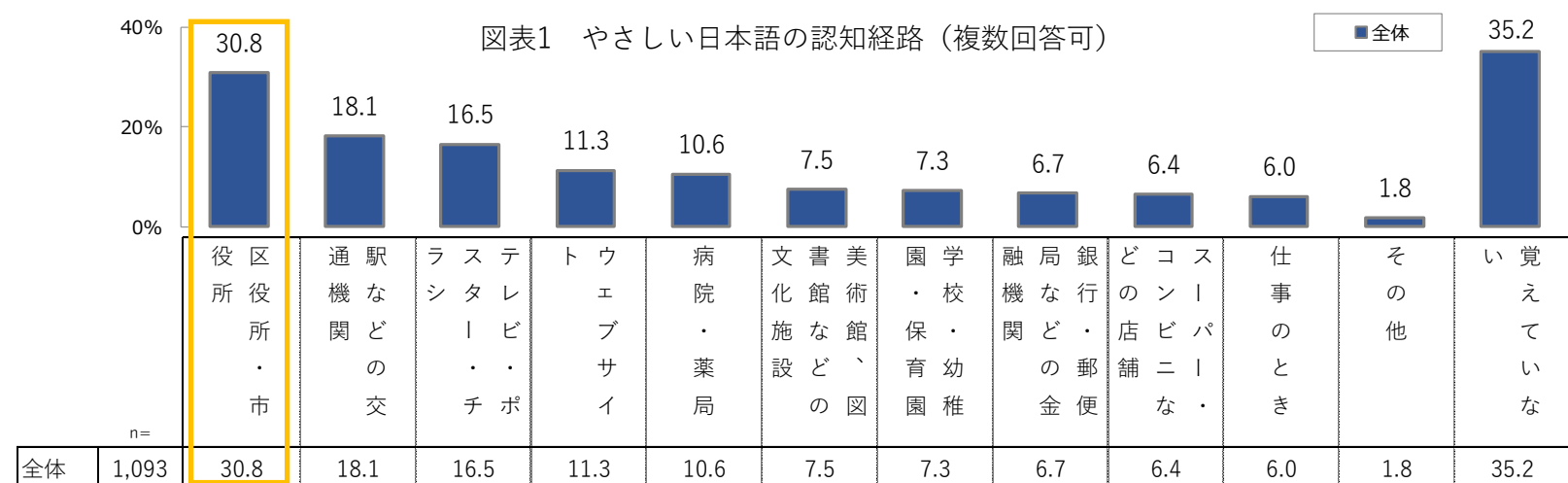
### やさしい日本語の認知経路

- やさしい日本語を「知っている（計）」と回答した人（全体の48.0%）にやさしい日本語の認知経路を尋ねた（複数回答可）。
- 区役所・市役所が最も高く30.8%となっている。以下、駅などの交通機関（18.1%）、テレビ・ポスター・チラシ（16.5%）、ウェブサイト（11.3%）、病院・薬局（10.6%）、美術館・図書館などの文化施設（7.5%）、学校・幼稚園・保育園（7.3%）、融機関（6.7%）、銀行・郵便局（6.4%）、コンビニ（6.0%）、仕事（6.0%）、その他（1.8%）、覚えていない（35.2%）となっている（図表1参照）。

表2 やさしい日本語の認知度×外国人との接触機会

		n 数	やさしい日本語の認知度				知っている と回答した 人の合計
			よく 知っている	ある程度 知っている	見たこと、 聞いたこと がある	全く 知らない	
全 体		2,276	6.4%	16.8%	24.8%	52.0%	48.0%
外国人 との接 触機会	ある	220	25.9%	25.9%	15.0%	33.2%	66.8%
	ときどきある	352	9.9%	34.4%	27.3%	28.4%	71.6%
	あまりない	560	3.0%	17.9%	34.3%	44.8%	55.2%
	全くない	1,144	3.2%	9.1%	21.3%	66.3%	33.7%

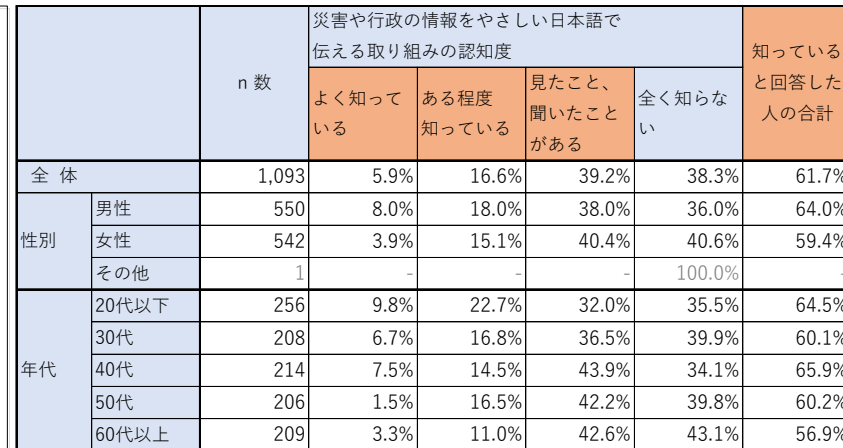
図表1 やさしい日本語の認知経路（複数回答可）



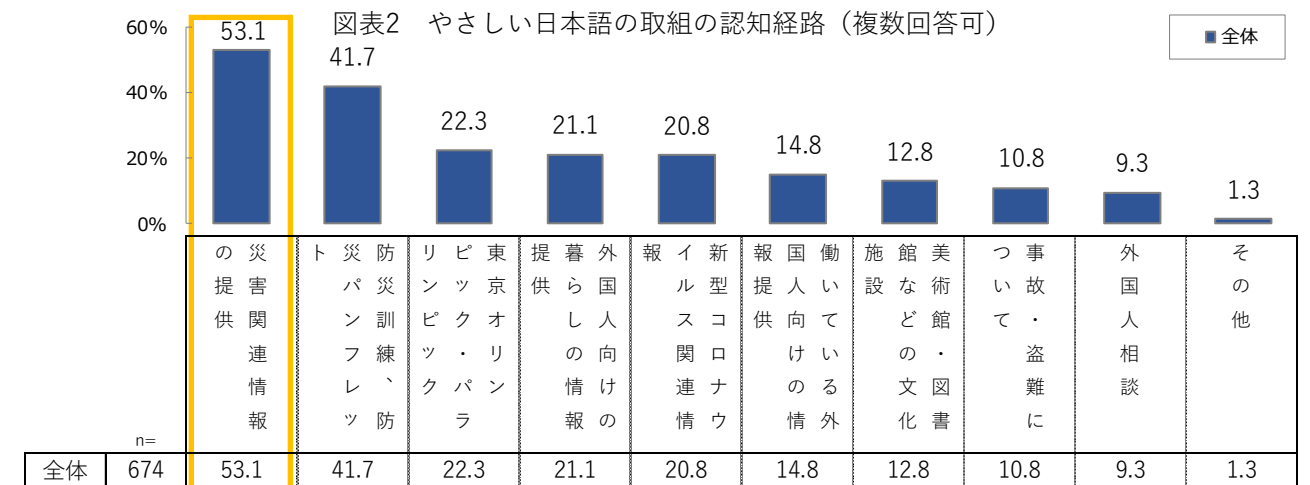
## やさしい日本語の取組の認知経路

- 災害や行政の情報をやさしい日本語で伝える取り組みを「よく知ってる」「ある程度知っている」「見たこと、聞いたことがある」と回答した人（取組の認知度回答者全体の61.7%）に取り組みの認知経路を尋ねた（複数回答可）。
- 「災害関連情報の提供」が最も高く53.1%となっている。以下、「防災訓練、防災パンフレット」（41.7%）、「東京オリンピック・パラリンピック」（22.3%）、「外国人向けの暮らしの情報提供」（21.1%）、「新型コロナウイルス関連情報」（20.8%）と続く。災害や防災関連といった非常時に関する取り組みに対する認知経路が上位を占めた（図表2参照）。

表3 やさしい日本語の取組の認知度（性別・年代別）



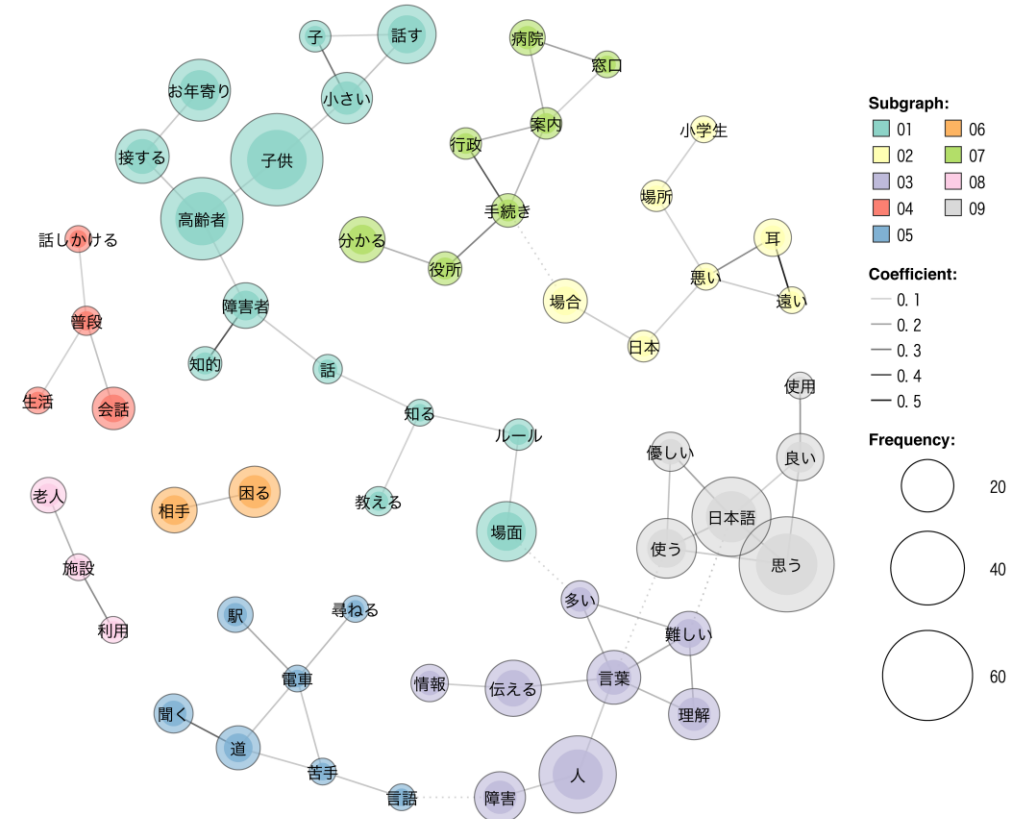
※n=30サンプル以下は参考値  
※小数点以下第1位表記のため合計値とカテゴリー個々を加算した計に差異あり



外国人以外へのやさしい日本語の活用場面<自由回答>

- 外国人への対応以外に、やさしい日本語を活用すると良いと思う場面があるか自由回答形式で尋ねた。
- 「高齢者」「子供」「障害者」「接する」の単語に共起性があり、出現数も多いことから、子ども、高齢者、障害者とコミュニケーションを取る場面ではやさしい日本語を活用できるという意見があることがわかる。また、「耳」「遠い」「悪い」などの単語も共起性があり、文字コミュニケーションツールとしての可能性に言及する意見も見られる（図4参照）。

図4 外国人以外へのやさしい日本語の活用場面<共起ネットワーク図>



自由回答については、抽出語の出現頻度と抽出語同士の関連性を要約提示する目的において、共起ネットワーク図の描画を行った。共起ネットワークとは出現パターンの似通った語、すなわち抽出語間の共起性の強さをネットワーク図で表したもので、円の大きさは言葉の頻度の多さを示し、円をつなぐ線の距離は関連性の深さを示している。※自由回答の生データは、別紙参照